



1 山頂から西側には焼石連峰と奥州市一帯が広がる。山頂まで遊歩道が整備され、気軽に自然を親しむことができる
2 浸食から取り残された岩盤、モナドノツ

ク(残丘)が多く見られ、自然の造形美を造り出している
3 山頂にある球形の建造物は、国土交通省のレーダ雨量観測所

奥州遺産

―ときを越え

受け継がれるもの―

第134回

物見山(種山ヶ原)

(国指定名勝)

江刺米里字大畑

奥州市、住田町、遠野市、一関市にまたがる種山高原のほぼ中央に位置する物見山。標高は約870^m。山頂は展望がよく、北は岩手山や早池峰の連山、東に五葉山、南に室根山が望める。そして西には、焼石連峰と奥羽山脈のなだらかな山並み、その麓にある広大な北上盆地を一望でき、雄大な自然景観を満喫することができる。

平成17(2005)年には、日本を代表する作家である宮沢賢治が、理想の大地として名付けた「イーハトーブ」を構成する場所の一つとして、鞍掛山(滝沢市)や釜淵の滝(花巻市)などとともに国指定名勝イーハトーブの風景地に指定されている。

数多くの賢治の作品の舞台となったこの地には、初夏に咲くレンゲツツジを始めとした木々が大地を彩り、夜空には無数の星がきらめく。雄大な風景に魅了された多くの人々が、現在も自然の風を求めて訪れる。

広告